

例中6例に症状の消失乃至軽快をみとめ有効率は75%であった。症状別にみると偏頭痛、排尿障害、不眠、めまい等の症状は全例において消失乃至軽快し、全身疲労感、頭痛・頭重、乳房緊張、下腹痛、腰痛などにも著明な効果がみられた。

Ⅲ. 更年期障害

更年期障害に対しては Estriol Depot 10mgを筋注後10日～2週毎に経過を観察したが18例中15例に有効で有効率は83%であった。症状別にみると耳鳴り、息切れ、発汗などは全例が消失乃至軽快し、頭重感、興奮、腰痛、顔面潮紅、のぼせ、熱感、めまい、不眠、手足冷感等にも著明な効果がみられたが、肥満、肩凝り、記憶力減退、どうき等に対しては余り効果がみとめられなかった。脂質代謝との関連をみるために血清総コレステロール値を Estriol Depot 10mg投与の前後に測定してその変動を検索したが著変を認めなかった。

65. 妊娠時における Thyrotropin と Gonadotropin

(神戸医大)

植田 安雄, 望月 真人, 岸本 弓弦,
石上 統, 水沢 精一, 鷺尾 隆

胎盤で産生される各種ホルモンについてはすでに研究されているが、胎盤で他のホルモンと同様に Thyrotropin (TSH) が産生されるかどうかは不明である。

我々は、TSHの bioassay 分離、抽出に関する教室の業績を活用して此の問題を解明しようと試みた。

胎盤組織の homogenate にTSH製剤を加え時間を追って Bates 氏法及びアルコール4倍量沈澱法でこれを回収すると、いずれの方法でも、分娩直後より24時間放置した場合の方がTSHの回収が良好であるという成績を得た。同じ方法で胎盤よりTSH様物質の抽出を行うと前述の回収試験と同様に24時間放置の胎盤より最も高いTSH活性をみとめた。

さて、TSH製剤添加胎盤組織より抽出したものを連続式濾紙電気泳動法にて分割し各分割の carbohydrates を定量すると Hexose は0時間より24時間放置した場合の方が多く、逆に Sialic acid は24時間放置すると低下するという成績が得られ、この事は0時間より24時間放置した胎盤組織の方にTSH活性が高いということと何等かの関係があると考えられる。

処で、胎盤には重量比にして10～35%の血液が含まれている。従って胎盤中のTSH活性を云々する場合にはこの含有血中のTSH活性を考慮しなければならない。

我々が測定した妊娠後期の妊娠血中TSHは0.11musp/mlであり、この値より胎盤中TSH値を検討してみると殆んど含有血中TSH値の域を出るものでなく、胎盤でTSHが産生されているとは考え難い。

次に、妊婦尿中の Gonadotropin の生化学的性状に関してはすでに発表したが(昭和35年日本産婦人科学会総会)更にG活性と carbohydrates の量的関係を検討した。

電気泳動学的に単一とみられる NIH-LH 及びFSHを用いてその carbohydratesを測定すると NIH-LH では Hexose 6.5%, Hexosamine 6.3% Sialic Acid 0.32%, FSHでは Hexose 4.2% Hexosamine 3.7% Sialic acid 3.75%であった。この結果、LHはFSHに比して Hexose の含有量が多く、逆に Sialic acid の量が少いという結果を得た。

妊娠前期及び後期婦人尿より Kaolin 吸着法にてGを抽出し、この carbohydrates を測定、更にこれを連続式濾紙電気泳動法で分割し各分割毎に carbohydratesを測定すると活性分割では Hexose, Sialic acid 共に含有量が多く、NIH-LH, FSHの carbohydrates と比較するとLH作用のある分割の carbohydrates は NIH-LH のそれと近似しており、FSH作用のある分割の carbohydrates は NIH-FSH のそれと似通っていた。閉経期後婦人尿中Gについても同じことが云える。

この結果、尿中Gの活性と carbohydrates の量とは相關々係があると考えられ、carbohydrates の含有量がGの組成LHであるかFSHであるかを判定する一つの手段となるのではないかと推論される。

66. 人絨毛性性腺刺激ホルモン(HCG)継続投与によるラット主要臓器の組織所見(第4報) —去勢或は下垂体剔除雌性ラットについて—

(関東通信) 街風 喜雄, 大森 亮英

去勢或は下垂体剔除成熟雌性ラットにHCG: (Human Chorionic Gonadotrophin), ED-B: (Estradiol benzoate) 及びPr-C: (17 α -hydroxprogesteron Rapronat) を単独或は併用し、去勢或は下垂体剔除後1週間飼育し以後5週間継続皮下注射施行、第6週目に屠殺、子宮、卵巢、下垂体及び副腎を剔除組織所見を検討した。実験方法: HCG 20Gi.u. 及び ED-B 0.1mgは週2回、Pr-C は12.5mg週1回皮下注射を行った。去勢或は下垂体剔除群にそれぞれHCG, HCG+ED-B, HCG+Pr-C, HCG+ED-B+Pr-C, ED-B, Pr-C, ED-B+Pr-C 及び無処置の8グループを作り、ホルマリン固定、パラフィ